

シンポジウムⅠ 《ISO》 血液・総合管理・生理・超音波合同

「やってよかった？やらないきゃよかった？— ISO 15189 のリアル—」

～取得と維持の“ホンネ”の共有、取得を目的としないQMSについて考える～

〈企画の趣旨・目的〉

血液部門・総合管理・生理超音波部門との合同開催。ISO 15189 が今年秋に JIS 化されることが決まっており、ISO 15189 について興味をもっている施設も多い。また ISO 15189 の規格自体が 2022 に改訂され要求事項に変化がみられ細かな要求事項がなくなり各施設の努力に期待する内容が増えた。ISO 15189 認定取得は労力・コストがかかるというマイナスイメージも強いが、実際のところはどうなのか？ ISO 認定施設からの声、認定を行う側からみた ISO 15189 要求事項の解釈、ISO 取得の意義などについて講演いただき取得を迷っている施設からのコメントなども交え ISO 15189 について多角的にディスカッションを行う。

会場	日時	演題名	講演者	座長
第2会場	10月18日(日) 9:20～10:20	ISO 15189 未取得施設から取得施設へ転職した臨床検査技師視点で考える	高橋 雄大 国立大学法人 長崎大学病院	森 沙耶香 国立大学法人 長崎大学病院
		ISO 15189、振り回されて疲弊しないために ～本当にそこまで必要なのか～	平石 直己 公益財団法人 日本適合性認定協会 LAB 認定ユニット 検体 病理検査担当	樋口 ちひろ 地方独立行政法人 佐世保市総合医療センター

※本学会にて ISO 15189 相談室を併せて開催しております。会場等については P14、「学会のご案内」にて記載。

シンポジウムⅡ 微生物部門 「微生物検査 UP DATE」

〈企画の趣旨・目的〉

微生物検査の各分野のスペシャリストに基礎から最新技術を講演いただき日常検査のアップデートに役立ててもらおう。分野は3つで、血液培養、消化器培養、抗酸菌培養について各検査の基礎から、シンポジウム講師の施設で取り組まれている検査法や運用についてご紹介いただく。講演後のディスカッションの時間には、各テーマの検査法に関することに加えて、検査方法の運用変更における苦労や工夫したポイントなどについても討議し、参加者で共有できたらと考える。

会場	日時	演題名	講演者	座長
第2会場	10月18日(土) 13:00～14:30	血液培養検査 UP DATE ～遠心集菌操作のススメ～	八幡 照幸 沖縄県立八重山病院	堀内 寿志 福岡市立こども病院
		腸管感染症検査 UP DATE ～下痢原性大腸菌検査の現状と課題～	磯崎 将博 一般社団法人 天草郡市医師会立 天草地域医療センター	
		抗酸菌検査 UP DATE ～抗酸菌検査体制の再評価～	川上 洋子 産業医科大学病院	独立行政法人 労働者健康安全機構 長崎労災病院

シンポジウムⅢ 輸血部門 「地域医療を支える～安全・安心の輸血体制～」

〈企画の趣旨・目的〉

輸血は移植医療でありながら、規模の大小にかかわらず多くの施設で実施されている。

しかし、施設の規模や立地によっては、輸血知識の習得や輸血の運用に不安が残るといった施設も多い。

今回のシンポジウムでは、そのような難しい状況で、安全な輸血体制に尽力している施設の皆様に講演いただき、今後の安全な輸血実施のための一助となることを目的としている。

会場	日時	演題名	講演者	座長
第3会場	10月18日(土) 13:00～14:15	小規模施設で認定輸血検査技師資格を取得した経験より	永田 久乃 長崎県病院企業団 長崎県島原病院	吉田 雅弥 日本赤十字社 熊本赤十字病院
		奄美大島の中核病院における輸血運用について	渡邊 顕士 鹿児島県立大島病院	
		長崎県赤十字血液センターにおける離島への血液製剤供給状況	手島 貴也 日本赤十字社 長崎県赤十字血液センター	

シンポジウムⅣ 臨床化学・免疫部門

「パニック値の報告どうやっていますか？いろんな施設の報告を聞いてみよう。」

〈企画の趣旨・目的〉

医療事故の再発防止に向けた提言 第20号 血液検査パニック値に係る死亡事例の分析の提言もあり

各施設パニック値の報告体制など報告、対応ルールを医療機関で作成・修正しておられる施設もあるかとおもいます。今回、九州内の複数の施設のパニック値報告について報告していただく場を設けました。

会場	日時	演題名	講演者	座長
第4会場	10月18日(土) 13:00～14:30	パニック値における検査室の対応と病院全体の体制について	河野 克海 国立大学法人 宮崎大学病院	井田 唯香 独立行政法人 地域医療機能推進機構 諫早総合病院
		当院におけるパニック値報告体制について ～記録漏れゼロを目指して～	神宮司 亨 鹿児島市立病院	
		当社医療検査センターでのパニック値の取扱いについて	今村 肇 株式会社 QCL 生化学免疫グループ	
		パニック値について～医療機器メーカーの目線から	小島 和茂 日本電子株式会社	

シンポジウムV 一般部門 「尿沈渣検査の精度管理について～現状と対策および展望～」

＜企画の趣旨・目的＞

各施設で担当技師にその判定の全てが任されている尿沈渣検査では、担当技師の尿沈渣を見る力によって結果が左右されるため、長崎県を含む九州内4県の尿沈渣検査の精度管理状況を調査し報告して頂き、討論し、尿沈渣検査の精度保証を担保するために、どのような事を行うべきかを導き出したい。

会場	日時	演題名	講演者	座長
第5会場	10月18日(土) 13:00～14:30	尿沈渣検査の未来への扉を開く～尿沈渣検査の精度保証～	浦壁 順一郎 医療法人社団兼愛会 前田医院	林 和可子 長崎医学中央検査室
		「大分県の尿沈渣検査の精度管理の現状と課題」	岩崎 信子 医療法人 大分記念病院	浦壁 順一郎 医療法人社団兼愛会 前田医院
		「熊本県における尿沈渣検査の精度管理の現状と課題」	山本 紀子 国立大学法人 熊本大学病院	
		尿沈渣の精度管理アンケート結果～鹿児島県より～	今林 久美子 出水総合医療センター	
		尿沈渣検査の精度管理～長崎県のアンケート調査報告～	壽柳 圭加 独立行政法人 地域医療機能推進機構 諫早総合病院	

シンポジウムVI 血液・総合管理・生理・超音波合同

「AIに期待！臨床検査技師の未来 ～臨床検査業務をAIが変える？～」

＜企画の趣旨・目的＞

近年コンピューターの性能が大きく向上したことにより、AI技術が医療現場においても大きな役割を果たしつつある。画像診断支援のみならず、医療スタッフの負担軽減や人的エラーの減少、業務効率化・コスト削減など、医療現場でのAI活用はますます拡大していくと考えられる。今回2名の方に医療・臨床検査におけるAI技術の活用について講演いただき、今後さらに進化し、欠かせない存在となるAIについて参加者と一緒に考える機会としたい。

会場	日時	演題名	講演者	座長
第2会場	10月19日(日) 9:30～10:30	「AI時代の超音波検査：効率化と信頼性を技師がどう支えるか」	安藤 豪啓 富士フィルムメディカル株式会社	高橋 雄大 国立大学法人 長崎大学病院
		「検体検査におけるデジタルイゼーション」	吉田 健太 シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社	樋口 ちひろ 地方独立行政法人 佐世保市総合医療センター

シンポジウムVII 遺伝子・染色体部門 「知って得するがんゲノム医療」

〈企画の趣旨・目的〉

がんゲノム医療について、よく知らない人でも分かりやすい基本的な説明から、現場の経験談、パネル検査の重要性、これからの展望までを解説します。個別化医療の大切さについて、検査を行う側だけでなく、患者の立場からも参考になる内容を提供します。

会場	日時	演題名	講演者	座長
第3会場	10月19日(日) 9:30~11:00	実践から見たがんゲノム医療 の現状と課題	有働 恵美子 国立大学法人 長崎大学病院	松本 成良 国立大学法人 長崎大学病院
		造血器腫瘍遺伝子パネル検査 へムサイト®の概要	木佐貫 徹 大塚製薬株式会社 診断事業 部 造血器腫瘍ゲノム医療推 進プロジェクト	

シンポジウムVIII 病理・細胞診部門

「免疫染色の賢いマネジメント～高精度×高効率の最前線へ～」

〈企画の趣旨・目的〉

近年、免疫染色は診断において欠かせない技術となっており、その実施件数は多くの施設で増加傾向にある。一方で、コンパニオン診断などの普及に伴い、その精度管理の重要性が一層高まっている。限られたマンパワーの中で業務量の増加と品質の確保という、相反する要求に悩む施設も多い事と思われる。

そこで、施設の規模に応じた精度管理、コスト管理、業務効率化の取り組みについて紹介し、情報を共有することにより、今後の免疫染色業務がより高精度で効率的なものとなるための議論の場を設けたい。また、熊本県で実施されている免疫染色サーベイの実施状況を元に、今後の九州全体としての精度向上の一助としたい。

会場	日時	演題名	講演者	座長
第4会場	10月19日(日) 9:30~11:00	当院における免疫染色の現状と 運用	安武 諒 国家公務員共済組合連合会 佐世保共済病院	谷口 慎一郎 宮崎県立 宮崎病院 竹林 英幸 日本赤十字社 長崎原爆病院
		当院の免疫染色に関する精度管 理について	安河内 達郎 一般財団法人 平成紫川会 小倉記念病院	
		当院における免疫染色の精度管 理	山形 真祐美 国立大学法人 長崎大学病院	
		熊本県における免疫染色サーベ イの実施状況と今後の展望	山崎 芳満 医療法人社団 世安会 くまもと乳腺外科病院	

スライドカンファレンス 血液部門

「プロに聞く！形態の読み解き方。形態から必要な追加検査を考える」

〈企画の趣旨・目的〉

血液形態を担当する技師のスキルアップを目的とする。

会場	日時	演題名	講演者	座長
第4会場	10月18日(土) 14:45~15:45	症例1	大塩 美央 国立大学法人 長崎大学病院	森 沙耶香 国立大学法人 長崎大学病院
		症例2	宮崎 勢子 地方独立行政法人 佐賀県医療センター 好生館	<コメンテーター> 松本 恵美子
		症例3	弓 友香 独立行政法人 国立病院機構 長崎医療センター	熊本保健科学大学 保健科学部 医学 検査学科 鶴田 一人 国立大学法人 長崎大学病院